

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-134	12-020	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Web-based alcohol intervention for Māori university students: double-blind, multi-site randomized controlled trial.</p> <p>マオリ大学学生を対象にしたインターネットを用いたアルコール介入：多施設二重盲験比較試験</p>		
<b>執筆者</b>		
Kypri K, McCambridge J, Vater T, Bowe SJ, Saunders JB, Cunningham JA, Horton NJ.		
<b>掲載誌</b>		
Addiction. 2012 Aug 28.		
<b>キーワード</b>		
問題飲酒、インターネット上での介入、先住民族、アルコール関連健康障害		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 多くの先住民族がそうであるように、ニュージーランド先住民であるマオリ族住民は、非先住民族に比較してアルコール関連の健康障害を多く抱えている。この民族間格差はとりわけ若年層に顕著である。我々はマオリ大学学生を対象に有害な飲酒行動を低減する目的で、インターネットを用いたアルコール関連健康障害のスクリーニングおよび簡単な介入 (e-SBI) の効果を検証した。</p> <p><b>方法：</b> ニュージーランドにある 8 つのうち 7 つの大学で多施設二重盲験比較試験を行った。2010 年 4 月にインターネット上の簡単な質問票(アルコール乱用同定試験[the Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT)-C]を含む) への回答を求める E メールを 17-24 歳のマオリ生徒 6,697 名に送った。AUDIT-C は危険で問題を起しかねない飲酒 (問題飲酒) のスクリーニングに用いられる。スクリーニング陽性者はコンピューターにより以下の二群に無作為化割り付けした：介入群—10 分未満のインターネット上での飲酒評価と個別フィードバック、対照群—スクリーニングのみ。観察者および対象者には研究仮説・デザイン・介入の有無に関しては知らせず (盲検) に、全過程を自動化した 5 か月間の追跡を行った。事前に規定した主アウトカムは以下の四点である：(i) 飲酒頻度、(ii) 一回の典型的飲酒量、(iii) 飲酒総量、(iv) 学業上の問題。</p> <p><b>結果：</b> 参加者のうち 1,789 名が問題飲酒者と判断され(AUDIT-C<math>\geq</math>4)、無作為化により 850 名が対照群、939 名が介入群に割り付けられた。そのうち対照群の 682 名 (80%)、介入群の 733 名 (78%) が追跡時の評価を完了した。対照群に比べて介入群は飲酒頻度が少なく[相対危険度 (RR) =0.89; 95% 信頼区間 (95%CI): 0.82-0.97]、一回当たりの飲酒量も少なく (RR=0.92; 95% CI: 0.84-1.00)、飲酒総量も少なく (RR=0.78; 95% CI: 0.69-0.89)、そして学業上の問題も少なかった(RR=0.81; 95% CI: 0.69-0.95)。</p> <p><b>結論：</b> 今回の大規模で実際的な介入研究により、問題飲酒について他者に相談・手助けを求めないマオリ生徒において、インターネット上でのスクリーニングとその後の簡単な介入により問題飲酒を低減することが示された。本研究は、先住民族の健康行動への介入という、これまで重要とされながらも顧みられてこなかった分野に関して、より広い意義を持つ。</p>		